

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	青森中央経理専門学校
設置者名	学校法人青森田中学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	経理情報科 経理事務コース	夜・通信	315 時間	160 単位時間	
	経理情報科 医療事務コース	夜・通信	315 時間	160 単位時間	
	経理情報科 観光コンシェルジュコース	夜・通信	420 時間	160 単位時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページの下記アドレスに掲載 http://www.aomoricu.ac.jp/s/guide/jyouhoukoukai/?preview=true&preview_id=2836&preview_nonce=1cfa732d5a

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	青森中央経理専門学校
設置者名	学校法人青森田中学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページに掲載
<http://www.aomoricgu.ac.jp/gakuen/pdf/H30gaiyo1.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	団体参与	2018. 6. 1～ 2022. 5. 31	法人運営体制の チェック機能
非常勤	株式会社代表取締役社長	2015. 9. 19～ 2019. 9. 18	法人運営体制の チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	青森中央経理専門学校
設置者名	学校法人青森田中学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成過程については、各科目担当教員において、次年度カリキュラム案を作成し、職員会議にて校長の承認を得ている。 ・授業計画については、年度毎に担当教員がシラバスを作成し、新年度開催されるオリエンテーションにて、授業の方法及び内容、年間授業計画と目標取得資格を予め明示し、学習ゴールを周知している。 ・シラバスは、本校ホームページにて公表している。 														
授業計画書の公表方法	https://www.aomoricgu.ac.jp/s/													
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学期末試験を行い、学習意欲と成果を評価している。また、学期末試験を実施しない科目については、出席率、授業課題、レポート等で評価をしている。成績の評価については、A・B・C・Dの4段階で示され、A・B・Cは合格、Dは不合格とする。</p> <p>(1) 各科目の評価は、学期末試験・出欠席(出席時間数4/5以上)と平素の成績等授業に関するすべてを総合的に勘案して決定している。</p> <p>(2) 評価と評点の関係は以下のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="483 1529 1126 1765"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>評点</th> <th>合否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>80～100点</td> <td rowspan="3">合格</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70～79点</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60～69点</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0～59点</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 上記の成績評価を基に職員会議の議を経て判定する。</p> <p>(4) 所定の科目に合格し次の条件を充たした者には、職員会議の議を経て校長は、卒業証書を授与する。</p>		評価	評点	合否	A	80～100点	合格	B	70～79点	C	60～69点	D	0～59点	不合格
評価	評点	合否												
A	80～100点	合格												
B	70～79点													
C	60～69点													
D	0～59点	不合格												
<p>2. 卒業認定要件を満たしていること。</p>														

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 成績評価については、期末試験を行い、学習意欲と成果を評価している。また、学期末試験を実施しない科目については、出席率、授業課題、レポート等で評価をしている。

成績の評価については、A・B・C・Dの4段階で示され、A・B・Cは合格、Dは不合格とする。

- (1) 各科目の評価・評点は、シラバスに記載している評価方法に基づき決定している。
 (2) 評価と評点の関係は以下のとおり。

評価	評点	可否
A	80～100点	合格
B	70～79点	
C	60～69点	
D	0～59点	不合格

なお、以下の算出基準により成績分布状況を把握している。

$$\frac{(\text{評価Aの科目数} \times 3) + (\text{評価Bの科目数} \times 2) + (\text{評価Cの科目数} \times 1)}{\text{科目数合計}}$$

- (3) 上記の成績評価を基に職員会議の議を経て判定する。
 (4) 所定の科目に合格し次の条件を充たした者には、職員会議の議を経て校長は、卒業証書を授与する。

2. 卒業認定要件を満たしていること。

客観的な指標の算出方法の公表方法	本校ホームページにて公表している。 https://www.aomoricgu.ac.jp/s/
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)
 ・卒業認定要件については、以下の2項目を満たすこととしている。
 1. 全科目において合格(学業成績評価A～C)すること。
 2. 各コースとも任意の三科目の中から、一科目につき3級を1資格以上、うち1資格は2級以上(国家試験合格を2級以上と見なす等、3級・2級と表記されない資格についてはシラバスを参照のこと)取得すること。
 または学校長が認めた上記に準ずる資格を取得すること。
 上記に記載されていない資格や新設の資格については卒業認定要件として考慮することがある。

卒業の認定に関する方針の公表方法	本校ホームページにて公表している。 https://www.aomoricgu.ac.jp/s/
------------------	--

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	青森中央経理専門学校
設置者名	学校法人青森田中学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページに掲載 http://www.aomoricgu.ac.jp/gakuen/pdf/H30gaiyol.pdf
収支計算書又は損益計算書	ホームページに掲載 http://www.aomoricgu.ac.jp/gakuen/pdf/H30gaiyol.pdf
財産目録	ホームページに掲載 http://www.aomoricgu.ac.jp/gakuen/pdf/H30gaiyol.pdf
事業報告書	ホームページに掲載 http://www.aomoricgu.ac.jp/gakuen/pdf/H30gaiyol.pdf
監事による監査報告（書）	ホームページに掲載 http://www.aomoricgu.ac.jp/gakuen/pdf/kansa2019.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務分野	専門課程	経理情報科 (経理事務コース)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,750単位時間	945 単位時間	595 単位時間	210 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1,750単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人内数	14人	0人	3人	6人	9人		
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
(概要) ・講義授業では基礎知識の習得を行い、実習、演習を通じて実践的な技術の修得を目指した授業を行っている。 ・学生が目標とする資格を科目ごとのシラバスに明記し、目標を持って学習している。 ・授業計画は、年度ごとに担当教員がシラバスを作成し、学生に配付し、学習ゴールを周知している。							
成績評価の基準・方法							
(概要) 成績評価については、期末試験を行い、学習意欲と成果を評価している。また、学期末試験を実施しない科目については、出席率、授業課題、レポート等で評価をしている。 成績の評価については、A・B・C・Dの4段階で示され、A・B・Cは合格、Dは不合格とする。 (1) 各科目の評価・評点は、シラバスに記載している評価方法に基づき決定している。							

(2) 評価と評点の関係は以下のとおり。

評価	評点	可否
A	80～100点	合格
B	70～79点	
C	60～69点	
D	0～59点	不合格

なお、以下の算出基準により成績分布状況を把握している。

$$\frac{(\text{評価Aの科目数} \times 3) + (\text{評価Bの科目数} \times 2) + (\text{評価Cの科目数} \times 1)}{\text{科目数合計}}$$

(3) 上記の成績評価を基に職員会議の議を経て判定する。

(4) 所定の科目に合格し次の条件を充たした者には、職員会議の議を経て校長は、卒業証書を授与する。

2. 卒業認定要件を満たしていること。

卒業・進級の認定基準

(概要)

・卒業認定要件については、以下の2項目を満たすこととしている。

1. 全科目において合格(学業成績評価A～C)すること。
2. 各コースとも任意の三科目の中から、一科目につき3級を1資格以上、うち1資格は2級以上(国家試験合格を2級以上と見なす等、3級・2級と表記されない資格についてはシラバスを参照のこと)取得すること。
または学校長が認めた上記に準ずる資格を取得すること。

上記に記載されていない資格や新設の資格については卒業認定要件として考慮することがある。

学修支援等

(概要)

学期ごとに、クラスアドバイザーによる個別面談の実施を行い、個別に状況ヒアリングを行っている。また、学習支援センターが設置されているため、学習面、学生生活面等の不安を抱える学生の窓口となり、専門的職員による相談を受けている。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	7人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等)

民間企業、観光業界等。

(就職指導内容)

クラスアドバイザーによる、学期毎の個別面談、相談を実施し、学生が抱える不安を早期に対応している。また、キャリア支援センターが配置されているため、求人に関する窓口を設け、かつ、専門的な職員による個別面接指導、履歴書添削指導の実施、個別相談を実施している。毎年3月に青森田中学園全体で実施する「学内企業セミナー」へ全員参加し、就職活動のスタートを切っている。随時実施される就職セミナー開催の紹介、授業の一環として行われる「企業セミナー」への参加により、就職意識

<p>を高めている。また、卒業生の就職先を訪問し、卒業後の状況を確認するとともに、後輩へのアドバイスをヒアリングし、学生指導に活かしている。</p> <p>専門的な職業の企業等を訪問し、人事担当者、卒業生との懇談会等によって、就職意欲を高め、正社員就職を目指すプログラムを実施している。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>日商簿記初級～2級、全経簿記3級～1級、日商PC検定3級～2級、情報活用試験3級～2級、秘書技能検定3級～2級、ファイナンシャルプランニング技能検定3級～2級等</p>
<p>(備考)(任意記載事項)</p> <p>就職状況の背景には、希望地域(県外・県内)によって、求人票の増減がある。また、職種によっては、定期的な求人ではなく、欠員補充を目的とする求人での募集もあるため、就職状況に影響している。</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	1人	6.7%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>家庭の経済的に修学が困難、学習意欲の欠如の理由により、就職へ転向したため。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>クラスアドバイザーが学期ごとに個別面談を行い、学生が抱える問題をヒアリングし、個別対応を行っている。また、学習支援センターにて、学業、人間関係、健康面などの相談を専門職員が対応している。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務分野	専門課程	経理情報科 (医療事務コース)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,750単位時間	819 単位時間	686 単位時間	245 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1,750単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人内数	21人	0人	3人	6人	9人		
カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)							
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義授業では基礎知識の習得を行い、実習、演習を通じて実践的な技術の修得を目指した授業を行っている。 学生が目標とする資格を科目ごとのシラバスに明記し、目標を持って学習している。 授業計画は、年度ごとに担当教員がシラバスを作成し、学生に配付し、学習ゴールを周知している。 							
成績評価の基準・方法							
<p>(概要) 成績評価については、期末試験を行い、学習意欲と成果を評価している。また、学期末試験を実施しない科目については、出席率、授業課題、レポート等で評価をしている。</p> <p>成績の評価については、A・B・C・Dの4段階で示され、A・B・Cは合格、Dは不合格とする。</p>							

(1) 各科目の評価・評点は、シラバスに記載している評価方法に基づき決定している。

(2) 評価と評点の関係は以下のとおり。

評価	評点	合否
A	80～100点	合格
B	70～79点	
C	60～69点	
D	0～59点	不合格

なお、以下の算出基準により成績分布状況を把握している。

$$\frac{(\text{評価 A の科目数} \times 3) + (\text{評価 B の科目数} \times 2) + (\text{評価 C の科目数} \times 1)}{\text{科目数合計}}$$

(3) 上記の成績評価を基に職員会議の議を経て判定する。

(4) 所定の科目に合格し次の条件を充たした者には、職員会議の議を経て校長は、卒業証書を授与する。

2. 卒業認定要件を満たしていること。

卒業・進級の認定基準

(概要)

・卒業認定要件については、以下の2項目を満たすこととしている。

1. 全科目において合格(学業成績評価A～C)すること。

2. 各コースとも任意の三科目の中から、一科目につき3級を1資格以上、うち1資格は2級以上(国家試験合格を2級以上と見なす等、3級・2級と表記されない資格についてはシラバスを参照のこと)取得すること。

または学校長が認めた上記に準ずる資格を取得すること。

上記に記載されていない資格や新設の資格については卒業認定要件として考慮することがある。

学修支援等

(概要)

学期ごとに、クラスアドバイザーによる個別面談の実施を行い、個別に状況ヒアリングを行っている。また、学習支援センターが設置されているため、学習面、学生生活面等の不安を抱える学生の窓口となり、専門的職員による相談を受けている。

卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	16人 (94.1%)	1人 (5.9%)

(主な就職、業界等)

民間企業、病院、調剤薬局等。

(就職指導内容)

クラスアドバイザーによる、学期毎の個別面談、相談を実施し、学生が抱える不安を早期に対応している。また、キャリア支援センターが配置されているため、求人に関する窓口を設け、かつ、専門的職員による個別面接指導、履歴書添削指導の実施、

個別相談を実施している。毎年3月に青森田中学園全体で実施する「学内企業セミナー」へ全員参加し、就職活動のスタートを切っている。随時実施される就職セミナー開催の紹介、授業の一環として行われる「企業セミナー」への参加により、就職意識を高めている。また、卒業生の就職先を訪問し、卒業後の状況を確認するとともに、後輩へのアドバイスをヒアリングし、学生指導に活かしている。

専門的な職業の企業等を訪問し、人事担当者、卒業生との懇談会等によって、就職意欲を高め、正社員就職を目指せるプログラムを実施している。

(主な学修成果(資格・検定等))

日商簿記初級～2級、全経簿記3級～1級、日商P C検定3級～2級、情報活用試験3級～2級、秘書技能検定3級～2級、医事コンピュータ技能検定試験3級～2級、電子カルテ実技検定試験、調剤事務管理士技能認定試験、等

(備考)(任意記載事項)

その他に含まれる進路としては、卒業後直ぐに就職を希望しない学生が含まれる。就職状況の背景には、希望地域(県外・県内)によって、求人票の増減がある。また、職種によっては、定期的な求人ではなく、欠員補充を目的とする求人での募集もあるため、就職状況に影響している。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	1人	3.6%
(中途退学の主な理由) 家庭の経済的に修学が困難、学習意欲の欠如の理由により、就職へ転向したため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラスアドバイザーが学期ごとに個別面談を行い、学生が抱える問題をヒアリングし、個別対応を行っている。また、学習支援センターにて、学業、人間関係、健康面などの相談を専門職員が対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務分野		専門課程	経理情報科 (観光コンシェルジュコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,750単位時間	903 単位時間	546 単位時間	301 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1,750単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人内数		5人	0人	3人	6人	9人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要)	
<ul style="list-style-type: none"> 講義授業では基礎知識の習得を行い、実習、演習を通じて実践的な技術の修得を目指した授業を行っている。 学生が目標とする資格を科目ごとのシラバスに明記し、目標を持って学習している。 授業計画は、年度ごとに担当教員がシラバスを作成し、学生に配付し、学習ゴールを周知している。 	

成績評価の基準・方法																
<p>(概要) 成績評価については、期末試験を行い、学習意欲と成果を評価している。また、学期末試験を実施しない科目については、出席率、授業課題、レポート等で評価をしている。</p> <p>成績の評価については、A・B・C・Dの4段階で示され、A・B・Cは合格、Dは不合格とする。</p> <p>(1) 各科目の評価・評点は、シラバスに記載している評価方法に基づき決定している。</p> <p>(2) 評価と評点の関係は以下のとおり。</p>																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>評点</th> <th>可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>80～100点</td> <td rowspan="3">合格</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70～79点</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60～69点</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0～59点</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table>				評価	評点	可否	A	80～100点	合格	B	70～79点	C	60～69点	D	0～59点	不合格
評価	評点	可否														
A	80～100点	合格														
B	70～79点															
C	60～69点															
D	0～59点	不合格														
<p>なお、以下の算出基準により成績分布状況を把握している。</p> <p style="text-align: center;"> $\frac{(\text{評価Aの科目数} \times 3) + (\text{評価Bの科目数} \times 2) + (\text{評価Cの科目数} \times 1)}{\text{科目数合計}}$ </p> <p>(3) 上記の成績評価を基に職員会議の議を経て判定する。</p> <p>(4) 所定の科目に合格し次の条件を充たした者には、職員会議の議を経て校長は、卒業証書を授与する。</p> <p>2. 卒業認定要件を満たしていること。</p>																
卒業・進級の認定基準																
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業認定要件については、以下の2項目を満たすこととしている。 <ol style="list-style-type: none"> 全科目において合格(学業成績評価A～C)すること。 各コースとも任意の三科目の中から、一科目につき3級を1資格以上、うち1資格は2級以上(国家試験合格を2級以上と見なす等、3級・2級と表記されない資格についてはシラバスを参照のこと)取得すること。 または学校長が認めた上記に準ずる資格を取得すること。 上記に記載されていない資格や新設の資格については卒業認定要件として考慮することがある。 																
学修支援等																
<p>(概要)</p> <p>学期ごとに、クラスアドバイザーによる個別面談の実施を行い、個別に状況ヒアリングを行っている。また、学習支援センターが設置されているため、学習面、学生生活面等の不安を抱える学生の窓口となり、専門的職員による相談を受けている。</p>																

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)

<p>(主な就職、業界等)</p> <p>観光業界。</p>
<p>(就職指導内容)</p> <p>クラスアドバイザーによる、学期毎の個別面談、相談を実施し、学生が抱える不安を早期に対応している。また、キャリア支援センターが配置されているため、求人に関する窓口を設け、かつ、専門的な職員による個別面接指導、履歴書添削指導の実施、個別相談を実施している。毎年3月に青森田中学園全体で実施する「学内企業セミナー」へ全員参加し、就職活動のスタートを切っている。随時実施される就職セミナー開催の紹介、授業の一環として行われる「企業セミナー」への参加により、就職意識を高めている。また、卒業生の就職先を訪問し、卒業後の状況を確認するとともに、後輩へのアドバイスをヒアリングし、学生指導に活かしている。</p> <p>専門的な職業の企業等を訪問し、人事担当者、卒業生との懇談会等によって、就職意欲を高め、正社員就職を目指せるプログラムを実施している。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>日商簿記初級～2級、全経簿記3級～1級、日商PC検定3級～2級、情報活用試験3級～2級、秘書技能検定3級～2級、総合旅行業務取扱管理者、国内旅行業務取扱管理者、旅行地理検定、観光英語検定等</p>
<p>(備考)(任意記載事項)</p> <p>就職状況の背景には、希望地域(県外・県内)によって、求人票の増減がある。また、職種によっては、定期的な求人ではなく、欠員補充を目的とする求人での募集もあるため、就職状況に影響している。</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	1人	33.3%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>家庭の経済的に修学が困難、学習意欲の欠如の理由により、就職へ転向したため。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>クラスアドバイザーが学期ごとに個別面談を行い、学生が抱える問題をヒアリングし、個別対応を行っている。また、学習支援センターにて、学業、人間関係、健康面などの相談を専門職員が対応している。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
経理情報科 (経理事務コース)	80,000 円	440,000 円	180,000 円	施設維持費 90,000 円 教育充実費 90,000 円
経理情報科 (医療事務コース)	80,000 円	440,000 円	180,000 円	施設維持費 90,000 円 教育充実費 90,000 円
経理情報科 (観光コンシェルジュコース)	80,000 円	440,000 円	180,000 円	施設維持費 90,000 円 教育充実費 90,000 円
修学支援 (任意記載事項)				
授業料等減免制度：「子弟減免制度」、「特待生制度」、「設置校入学に伴う入学金減免制度」、「青森中央短期大学附属幼稚園卒園者入学金減免制度」				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校ホームページにて公表している。 https://www.aomoricgu.ac.jp/s/
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本校は、職業実践専門課程の認定を受けている。年2回、学校関係者評価委員会を開催し、各コースに係る業界から委員の出席を行い、カリキュラム等の意見を受け、次年度の授業計画、シラバス作成、目標資格の設定等の学校教育に反映している。 評価委員の構成については、次の掲げる区分から校長が委嘱する委員により構成する。 (1) 関連業界等関係者 1名以上 (2) 卒業生 1名以上 (3) その他校長が必要と認める者 2 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。 経理、医療、観光コースに係る業界人から構成し、保険業界、税務業界、病院・薬局業界、観光施設業界等から構成し、評価委員が評価を行っている。 評価項目については、評価基準1～10までを設定し、各評価項目については、以下のとおりとする。 (1) 評価基準1 「教育理念・目的・育成人材像等」 (2) 評価基準2 「学校運営」 (3) 評価基準3 「教育活動」 (4) 評価基準4 「教育成果」 (5) 評価基準5 「学生支援」 (6) 評価基準6 「教育環境」 (7) 評価基準7 「学生の募集と受け入れ」 (8) 評価基準8 「財務」 (9) 評価基準9 「法令等の遵守」 (10) 評価基準10 「社会貢献」 上記10項目について、学校関係者評価委員が評価を行っている。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
資産設計提案会社	2019. 4. 1～ 2020. 3. 31	企業
株式会社税理士事務所	2019. 4. 1～ 2020. 3. 31	卒業生
県内病院施設	2019. 4. 1～ 2020. 3. 31	病院
県観光協会団体	2019. 4. 1～ 2020. 3. 31	団体
青森市横内町会	2019. 4. 1～ 2020. 3. 31	町内会
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<p>本校ホームページにて公表している。 https://www.aomoricgu.ac.jp/s/</p>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		
<p>本校の学校関係者評価結果の活用は、自己点検評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用することを目的としている。また、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めるためにも実施している。活用状況としては、第一に、各学科の目標・育成人材像が、その学科に対応する業界のニーズにマッチしているかを適切に判断することに有効であることが分かり、継続的、且つより一層力を入れて取り組むべき部分と業界状況を反映し、新たに取り組むべき部分が洗い出された。具体的には、卒業生が就職した企業への訪問において、これまでも継続的に行ってきたが、業界のニーズを把握する有効な活動として訪問件数を多くした。</p> <p>第二に、社会貢献においては、地域とのより密接な活動を求められている意見もあり、郷土や文化にも目を向け、学生の置かれている環境を幅広いコミュニティーへ変化させ、社会人になる前から人間力の成長へ繋げる活動も必要とされている点において、これまでも学内のパソコン室を使用した学生パソコン教室を実施してきたが、県総合社会教育センターのパソコン室を使用してのパソコン講座を一般の方々を対象に実施したのも含め、学生個々が修得した知識を存分に社会に広め、コミュニケーションを深める取り組みも図っている。</p>		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<p>本校ホームページにて公表している。 https://www.aomoricgu.ac.jp/s/</p>